

2025年度 公立大学法人大阪第10回役員会議事要旨

日時：2025年1月14日（水）9時30分～11時00分

場所：UR森之宮ビル3階 役員会議室

構成員：福島理事長、櫻木副理事長、酒井理事、丸尾理事、高橋理事、徳永理事、重松理事、
中村理事、宮部理事、帯野理事、藤本理事、藤沢理事(欠席)

監事：白井監事、前田監事

陪席者：露口本部事務機構長、大久保本部事務機構次長、石井本部事務機構次長、富宅阿倍野キャンパス事務局長、柴山企画総括部長、石田総務部長、森岡企画部長、肥田人事戦略部長、吉岡財務部長、船野学長室長、寺田阿倍野キャンパス事務局事務部長

【報告事項】

1 国際交流宿舍整備事業の進捗について

平井学務部長より、国際交流宿舍整備事業の進捗について報告があった。

<主な意見等>

- ・入館金の位置づけや用途はどのようになっているのか。
→入居者専用ICカードの発行など、初期設備費に充てるものであり、民間住宅の礼金に相当する。保証金は原状回復費を差し引いたうえで残額があれば返還される仕組みである。
- ・食事提供の費用・運用はどのようになっているのか。
→食事は利用者が利用分を支払う運用であり、スマートフォンでの申込・キャンセル等の仕組みを想定している。
- ・修繕費の扱いや老朽化対応はどのように行われるのか。また、業者を途中で変更できるのか。
→施設の修繕は原則業者負担。定期的な打合せにより、一般的に必要と判断される修繕は業者が実施する。契約上、途中の業者変更はできず、実績のある業者を選定している。
- ・命名権の扱いはどのようになっているのか。
→命名権は法人にある。
- ・バリアフリー室は一室で足りるのか。
→建設費、部屋数の制約からまずは一室を確保した。ニーズに応じて今後検討する。
- ・留学生は中国出身者が多く、多様な国からの受入戦略が必要ではないか。生協でハラル食を扱うなど、多様食への工夫も必要である。
→留学生の約7割が中国出身であり、今後の魅力づくりを含め多様な国からの受入拡大を検討する。多様食については業者による完全対応は困難であるが、可能な範囲で検討し、必要に応じて生協等とも調整したい。
- ・入居者の内訳（外国人・日本人の割合）はどうなるのか。
→当初は5割ずつを想定していたが、今後戦略的に比率を調整しながら運用する。
- ・地域のワンルーム家賃と比較するとどうか。
→留学生の平均家賃は50,000円強であり、昨今の家賃上昇を踏まえた上で今回の宿舍提案は上限70,000円以内で設定した。

2 2025大阪・関西万博への本学の取組報告について

森岡企画部長より、2025大阪・関西万博への本学の取組報告について報告があった。

<主な意見等>

- ・専門家から一般、子どもまで楽しめる多様な展示で非常に良かった。演出は誰が担当したのか。

→コンソーシアム参画企業および本学教員が企画段階から協働して制作した。

3 森之宮C開設に伴う近隣地域との関係性構築に向けた取り組みについて

石田総務部長より、森之宮C開設に伴う近隣地域との関係性構築に向けた取り組みについて報告があった。

<主な意見等>

- ・地域住民の方は図書館をどの程度利用しているのか。
→登録料2,000円(2年間有効)で1,000名程度が登録済。特に4階スペースは地域住民に好評であり、学生への悪影響は見られない。
- ・職員による見回りは負担にならないのか。何名の体制で実施しているのか。
→延べ150名が交代で従事しているため負担は大きくなく、違法と思われる勧誘の抑制などにも効果がある。
引き続き地域との関係構築を重点的に進める。

4 「感染症危機事象に備えた連携協力に関する協定書」の締結及び締結式について

中井産学官民共創推進室長より、「感染症危機事象に備えた連携協力に関する協定書」の締結及び締結式について報告があった。

【その他事項】

1 大阪健康長寿医科学センターPV視聴

中村理事より、大阪健康長寿医科学センターのPVについて報告があり、動画を視聴した。

【備考】

オンライン会議システムを併用した役員会は、適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認しており、終始異状なく議題の審議等を終了した。

以 上